

ボーイスカウト中野7団

30年のあゆみ

— *Spirits Forever* —

中野7団団歌

作詞 高橋 宏人
作曲 鈴木 信之

1. たくましく闇に焼けた 燐の中に
真理を見つめる 目が光る
鍛えた身体で挑戦しよう
未知の世界に
我ら手をとり 共に進もう
栄光の7団 7団 中野7団
2. “そなえよつねご”の 心の中に
決断行う 勇気が見える
奉仕の心で共に創ろう
平和な世界を
我ら手をとり 共に歩もう
栄光の7団 7団 中野7団

"B.-P.'s" LAST MESSAGE



Dear Scouts.—If you have ever seen the play "Peter Pan," you will remember how the pirate chief was always making his dying speech because he was afraid that possibly when the time came for him to die he might not have time to get it off his chest. It is much the same with me, and so, although I am not at this moment dying, I shall be doing so one of these days and I want to send you a parting word of goodbye.

Remember, it is the last you will ever hear from me, so think it over. I have had a most happy life and I want each one of you to have as happy a life too.

I believe that God put us in this jolly world to be happy and enjoy life. Happiness doesn't come from being rich, nor merely from being successful in your career, nor by self-indulgence. One step towards happiness is to make yourself healthy and strong while you are a boy, so that you can be useful and so can enjoy life when you are a man.

Nature study will show you how full of beautiful and wonderful things God has made the world for you to enjoy. Be contented with what you have got and make the best of it. Look on the bright side of things instead of the gloomy one.

But the real way to get happiness is by giving our happiness to other people. Try and leave this world a little better than you found it, and when your turn comes to die you can die happy in feeling that at any rate you have not wasted your time but have done your best.

"Be prepared" in this way, to live happy and to die happy—stick to your Scout promise always—even after you have ceased to be a boy—and God help you to do it.

Your friend,

Baden-Powell of Gilwell

最後のメッセージ

親愛なるスカウト諸君——君たちがもし「ピーターパン」の劇を見たことがあるならば、海賊の項目がいつも遺言を口にしていたことを思ひ出ででしょう。それは彼の死期がきたとき、手箱から遺言状を取り出す時間がないかも知れないことを恐れたからです。私の場合もそれと同じで、今、私は死ぬはオカではないのですが、死ぬ日がくることを思って、君たちにさよならの一言を送りたいと思います。

これは、君たちが囁から聞く最後のものだと思ってよく読んでください。

私は最も幸福な生涯を送りました。ですから君たち一人一人もまた幸福であるように私は祈ります。

神様は私たちを、幸福で楽しい人生を暮らせられるよう、この世に下し給うたのだと私は信じます。幸福というものは、お金持ちになったり、單なる立身出世や榮耀に成功したり、思いどおりとがままでできることではありません。幸福になる第一歩は、君たちの身体を、少年のうちに健康かつ強壮にすることに始まります。そうすれば君たちが大人になったときお役に立つことができ、それ故に人生を楽しむことができます。

自然研究は、神様が君たちの快楽のために創造されたこの世界が、美と眞實に満ちていることを君たちに教えるでしょう。君の得たものに満足し、そしてそれを最善なものにしなさい。物事の暗い面を見ないで明るい面を見なさい。

けれども、幸福を得る本当の道は、他の人々に幸福を与えることによって得られるものです。君たちの見いだした世界よりも、多少でもこの世界をよいものにし、後に残すのならば、君たちの死ぬ瞬間が留ってきたとき、自分は自分の最善を尽くしたのだから。とにかく、時を無駄にしなかったという、幸福を感じながら満足して死ぬことができます。

幸福に生き幸福に死ぬために、この道に「そなえよつねに」——いつもスカウトのちからを強く守りなさい——君たちが大人になった後でも変わることなく——神よ、君たちのすることにご加護あらんことを。

君たちの友

バーデン・パウエル・オヴ・ギルウェル

発団30周年に思う

中野7団 団委員長 高橋 宏人

思い起せば、昭和39年の夏、6名のシニア・スカウトの心の中に、ペーデン・パウエル卿が提唱した「スカウト運動」、それに対する「スカウト精神」が強烈に印象付けられ、それが強いとしてこの6名のスカウトの心に小さな火が点ついたのでした。

そこから、長いを終わることのない道程が始まったのです。その翌年（昭和40年6月）、当時、西野地区コミッショナーであられた武田先生をはじめとする先達の深いご理解あるご指導、ご援助により中野区新井の地で東京第257団（現中野7団）が誕生いたしました。

それから30年、あまりにも色々な事が記憶に蘇り、ここでは全てを申し述べることはできませんが、だらつける事は、この運動の根柢に深くと流れている精神は今も昔も「奉仕の精神」であります。

つまり他の人の幸せにしない限り自分も幸せにならないという事です。この事は、ペーデン・パウエル卿の精神からも理解できる様に、人が生きる上でもっとも基本的な事であり、又、この地球上に生活する人類にとって最も重要な事であると思われます。

しかしながら、この事を紙に書いたり口で述べたりすることは容易な事であります。重要なことは自らが実験し、その精神を次の世代のスカウトに伝承していく事、さらに、その次の世代に伝承できるスカウトを育てて行く事であり、本当に大変なことであったことが、この30年を振り返って思う事であります。

この30年、楽しかった事はもちろんな多さでしたが、辛かった事も多く、その精神を存続させ、何とかペーデン・パウエル卿の精神からはずれずに活動を続けて行く事は並大抵の事ではありませんでした。

その御立ても、當時（昭和39年）の気持に振り、その時に書いた事を再び念頭に置き直し、勇気を持ってその周囲々に誠実に対応して来たのではないかと想います。

つまり、その時の心に灯った火を大切に、大切に消さないように守ってきたと言ってもいいのではないでしょうか。

今の私の気持としては、今後はその火をさらに天にも届くような大きな火に成長させ、私の肉体（物質）が滅びようと、その火を次の世代のスカウトへ手渡すことで、ボーイスカウトの運動や精神は永遠なものとなってくれるのではないかと想っています。

これからも、この気持を忘れずに、スカウト活動に邁進したいと思います。
最後にこれまでの武田先生をはじめとする多くの先達、およびスカウトのご父兄の皆様のご指導、ご援助を心から感謝申しあげます。

称栄

発団30周年記念を祝して

武田次夫

日本ボーイスカウト中野7団が発団30周年を迎えたことを心からお喜び申し上げます。

30年前、次の世代を担う青少年の健全育成にこだまぬ努力を注がれ、発展に心を尽くされた第7団の方々に深い敬意を表します。

昭和40年といえば、日本の経済・機械文明は産業高潮を迎、青少年の行方もどうなるかと深い関心と戸惑いを感じる時代でしたが、その時に当り高橋委員長を中心に、中野7団が結成されたことは大きな意義をもつものと深く感銘しました。爾来ボーイスカウト運動の真髄を遺傳しつつ、各指導者の方々の努力によって今日の中野7団が益々の発展躍進があるものと考えます。

急激に変化する世界の情勢と共に、青少年を巻き環境も急変しています。この時に当たり次代を担う青少年の健全な育成こそが重大なる意義あるものと考えられます。創始者ペーデン・パウエル卿のボーイスカウト運動の理念に基づき、中野7団が益々の発展躍進することを期待し、7団の前菜を贈ります。

（日本ボーイスカウト東京都連盟参与）

称 栄

中野地区協議会長 松尾 宗明

中野7団が昭和40年中野区新井の地で、東京第257団として発足し、もう30周年を迎えるに当り、心からおめでとうを申し上げます。

聞く所によりますと、シニア隊から始めた異色の団との事ですが、現在では中野地区内では一番活気のある団である事は、万人ひとしく認めるものです。

最近スカウティングの内容について、云々されていますが、指導者をはじめとしてスカウトを含め7団全員が、体ごとの活動が行き届いている一際特色のある点は、社説の目標にもなるものと思います。7団ならではと、目をみはる点が多々ある事は、大変喜ばしいと常々感じている所です。

健ましい様なチームワークと活気を特長として、今後ますますそれらを生かし、他団の目標になる様、尚更の発展の期待しております。

「中野7団創立30周年によせて」

地区委員長 田尻 紀夫

この度ボーイスカウト中野第7団が、創立30周年を迎えられ、ここに記念誌を発行されることを心からお祝い申しあげます。昭和40年にボーイスカウト中野第7団(旧東京257団)として発團して以来、社会の発展と共に著実な歩みを続けられ、素晴らしいリーダーの育成とその努力により、多くの青少年をスカウト活動により健全に育んでこられたことは、大変嬉しい限りでございます。

皆様もご承知の通り、現今は青少年を取り巻く社会環境や家庭環境の大きな変化の波のなかで、青少年は経済的には恵まれ、物質的にも満足は得ても、精神的に成長できず、心の不安を訴えています。また、それが一面では「いじめ」として表面化しています。

スカウト活動では各年齢期に応じて、年齢の違う青少年のグループの中でリーダーシップやフレンドシップお互いに發揮し、青少年が自主性や協調性をもち、自分の役割を果たし成長していきます。そして、スカウトプログラムを楽しみながら進歩し、やり遂げる満足感や感謝する心を自然の中で培っています。これらの活動のなかにはボーイスカウトの規範「ちかり」と「おきて」が生きているのは言うまでも有りません。

このような活動を通して心身とも健全なスカウト達の成長々とこの中野第7団で育っているの士、育会会長、地区委員長はじめ保護者の方々、育会会員の役員の方々の日々の日々の多大なる努力、協力や援助によるものと感謝しています。

これからも伝統ある中野第7団が見事なリーダーのもと、30周年を一つの節目として家庭、地域、学校との連携を図りつつ、創始者ペーテンバウエル卿の樹精した素晴らしいスカウティングをこれからも続けていただき、更なる躍躍をされますことを祈念してお祝いの言葉をいたします。

耕栄

中野地区コミッショナー 吉村 利信

中野7団誕団30周年おめでとうございます。30年間の長い努力に敬意を表すとともに、これからもっと長く努力に期待します。私が中野7団(東京257団)を始めたのは、今から20年以上前私がまだ新米のリーダーでした。地区的ラリーでは7団のスカウトはいつもトップをねらっていました。

奥多摩から船山、大岳、御岳までのラリーで、御岳山頂で解散になり、7団のスカウトは走って御岳駅へ降りたときのことがとても印象に残っています。

私たちがケーブルを持っていましたとき、7団のリーダーが「行くぞ」の掛け声で駆け降りて行きました。ケーブルから山道を見ていると、7団のスカウトたちは小走りに下っていくのを追いましたが、ケーブルを降りる時に止まらず走られてしまい、結局御岳の駅で電車を待っているところへ追いつけました。

「すごいですね」「いやあお金がもったいないから」と譲譲して答えていましたが、その後の7団の活動を見るにつけ、いつも活潑で一言いえばすごい団だなあと思っています。

地区的集まりで7団のピッカヂーフを見ると、いつもあの時走り下っている姿を思い出します。これからも40周年50周年と活発な活動を続けてください。

目 次

【第1章】	歴代隊長「当時を振り返って」	1
【第2章】	活動アルバム	
§1	題卦～20周年ダイジェスト	7
§2	最近10年の活動	29
【第3章】	付録	
§1	歴代キャンプ地の跡跡	69
§2	BS歴代優秀班	72
§3	7回開催の基礎知識	73
§4	オリジナルゲーム・ソング集	75

【第2章】

活動アルバム

§1 稲田～20周年

ダイジェスト

ボーイスカウト中野10回 田志昌長 伊藤和美

三指 団創設30周年の御祝いを心から申し上げます。あの時の東京257団の皆が30年の時を経てこうして活躍している事に何とも言えぬ喜びを感じています。飛沼当時は、スカウトも少なかったのですが、新井小を拠点にしていた事から、6年生になる子供達が10人程入隊し、活動が活発化しました。夏季野営には、伊豆大島、戸隠と実施ましたが、半入前のスカウトの集団は何とも大変でした。

特に戸隠キャンプは、折からの台風で、豪雨に泣かされ、夜中の必死の雨対策にもお上りげ、移動を余儀なくされました。真夜中、しかも台風の中の叢宮は、それは厳しく。

(子供はおもしろがっていましたが、) 次なる場所へズブ濡れで、懲罰を頼りに、何往復もしました。水をすったテントは、最悪の条件では、丸めるだけで、重たいのは、付属品はなくすは、途中でけんかをはじめる子供が出来るはで、男力为主で大騒ぎでした。翌日、理想的のサイトづくりにかかるも東の間、當林署の役人がどこからか現われ、国有林での伐採やキャンプ、ひどいやつは、水害前の裏を立ちかまどに敷く者まで居て、厳重注意と、山程の蛇木轍をかかされた記憶があります。そんな貌で、三度目の叢宮をしたのですが、キャンプ終了時の自信に満ちた子供達の笑顔が今も忘れられません。とともに、三十年に渡り、無事にここまで来れたには、団を支えるスタッフの努力のたまものと考えております。

今後共、さらに活発な活動を期待しつつ、心より、叢宮30周年の御祝いを申し上げます。

称榮

【昭和41年～45年：BS】

【昭和46年～52年：SS】

「可愛いスカウト達は今、...」

北村陽子

会營が実施される何週間前には必ず、中野新井町の北野神社の広間を借り一泊の予行練習を行いました。始めてのスカウトは不安と緊しさで気持が高ぶり、滑稽時間になつて静かに眠る子、何回もトイレに行きリーダーの室を覗き安心して眠りにつく子、時間を計ってスカウト一人ひとりの顔を確認し、本番の会營に備えるべくプログラムを練ってリーダー達は精になってしまふこともあります。

当日、新井小学校の前からバスに乗り父母の心配そうな表情とは対照的に、一組から6組、組長を先頭に乗り込みます。車中一人が気分が悪くなると連鎖反応で次々と声がかかりインストラクターはビニールの袋を持ち車中を走り回ります。出発前に済したばかりの小便が吐き出たくなり途中バスを停める事もありました。

目的の会營地に着くと寂寥りです。自分の荷物をすばやく整理するのは経験のあるスカウトで、組長は、組旗を大切に一番目立つ所に置きます。毎朝掛便のチェックは行います

が3日目当りから食欲の無いスカウトが何人か出てきます。お腹を時計回りにやさしくマッサージし、それでも出ない時は肛門の周りを静かに押すやつとの思いでその気分になり急いでトイレに駆け込み「隊長出した」との声でリーダー一同ホットしたもののでした。

星間の準備（ゲーム）は集会で味あえない広大な場所で伸びのびと運動し、夜の食事もこのさうに気持よい疲労感で夜も静かになります。各組を夜の点検で丁度ドアを開けた時、スカウトの一人が窓に足をかけ出て行こうとして居るのです！速いスピードをつかえ下に降したところどうやら寝惚けたらしく自分の布団に入りそのまま寝りました。それが何がなくてよかったです。

4泊5日の最後のセレモニーであるキャンプファイヤーには高橋麗子委員長の、スカウトとしての自覚、会館の御用などの話があり“また会う日まで”を歌い楽しかった会場がキャンプファイヤーと共に消えます。

新井小学校前にバスが着きお父さん、お母さんの顔を見て本当に嬉しそうな表情を目の前して私達は事故なく無事に解散出来たことを心の糧として来年はもっとと、ファイトを燃したものでした。

【昭和48年～52年：CS】

私の30年

福嶋 和美

ボイススカウトのユニホームに慣れて入隊を希望した私は、見習い期間を経て漸く入隊式を迎える事ができました。

スカウト章を型どった黄色のキャンドルスタンプにローソクを灯し、鍵扉を握りながら「ちから」を誓った1コマは、印象強く今でも思い出されます。

その後、数々のスカウト活動を経験させていただき、1978年分討の期にカブ隊長を、お引き受けました。リーダー一級入替となった中野第7団カブ隊士、30数名のカブスカウト、服部副団長、田村、中川、木村が長袖、隊付、デンマーク、そして私の男所帯のカブ隊でスタートしました。それまでのカブ隊の活動や指導法をそのまま引継ぐ事も出来ず、自分の少年時代の想い出や、ボイススカウトでの経験等を振り返り、カブ、ボーイの区別なくスカウトが興味を持って集までき、楽しいプログラム作りを考え実行していました。投げたボールの一球一球がスカウトから返球される暇もない、そんな一方的な活動も時が過ぎるにつれ逆にボールを受ける立場になり、プログラムにリクエストをもらい「魚つり」「ボート」等を計画、実行。又、雨が降っても哲学堂公園にてポンチャを着て隊集会をする態になりました。

カブ隊長の8年間、そして中野第7団に「ちから」をたてて29年間、この頃のスカウティングは私の宝物です。そして人生これからの火種として燃やし続けていきます。

最後に、私たち大人は少年の登る山（目標）の入口に立たせてやるだけで、その先ジグザグの曲った道やカム道を行くも、真直の急な坂道を登るも、本人にまかせてよろしいと思

います。転んでも手助けせず、後から見てコースからはずれた時だけ修正して、本人の足で一步歩踏めて頂上についた時、一緒に喜んであげればそれがもっと大きな感動となるでしょう。

【昭和53年～61年：CS】

30周年を迎えて

S S 領隊長 武藤 敏人

「30年。」人に例えるなら1人前の責任のとれる大人の年齢です。よく30年の長い間続いてきたなというのも適切です。

スカウト活動の思い出はたくさんありますが、いちばん想い出に残っているのは、ボイススカウト時代の丹波キャンプです。このキャンプは全日雨がほとんどで、火がつかず子どもだった私は非常に辛いものでした。設営する場所が3回変更になり、班長（現福嶋和美委員長）と2人で、班のために、夜中雨でぬかるんだドロドロ道を歩いて荷物を運びました。今考えると、このキャンプの経験が、スカウト活動を続けるきっかけになつたと思います。

幸福になるために、主として野外活動を楽しみながら、自分でその答えを見つけていくのがボイススカウトの活動です。「お金や楽しいことだけ幸福」ではありません。

現在は人の個性観も多様化し、色々な団体もでき、スカウト活動をするには難しく時代ですが、7回の精神を守ってがんばっていきます。

今後ともよろしくお願ひいたします。

【昭和56年～平成7年：SS】

當時を振り返って

鈴木 信之

仕事の関係でイギリスに赴任し、スカウト生活から4年半経ちますが、当時の事はつゝ昨日の事の様に思い出せるのが大変不思議です。思えば小学校4年の時から20年以上スカウトをしていましたですから、ほとんど私の生活の一筋になっていました。こちらに来てから、日曜日に朝練を着ないのでしばらく変な感じがしていました。

何故か、苦しかったことをまず思い出します。子供達が宿題で走り込んでしまって山中をかけずり回って捲したハイキングのこと、子供の怪我や病気で緊急措置をしたこと、いいキャンプ場が見つからなくて何度も長野、山梨や静岡に車をとばして下見に行ったこと、少ないリーダーでやりくりした隊集合、学校、仕事、そして家庭との両立にも悩み、必死にな

って乗り切ってきました。

どうして自分はスカウトを続けてきたのか。それは、中野7団の伝統的な伝統觀が自分にとって大変魅力的だったからに他なりません。「自分で考え、自分で実行して実行し、それを最後までやりとげる」これは、齋藤が受け身とも言える今の学校教育にはなく、自分にはそれがとても面白かったのです。

「先日、日本で久しぶりにリーダー連に会う機会がありました。再会を楽しむ「宴会」の場だったはずなのですが、私たちはスカウト活動を盛り上げていくのが、自分たちはリーダーとして何をしていけばいいのかといった真摯かつ白熱した議論がたくさん出てきました。そして、その議論の輪に加わっていたのが、自分が以前隊長をしていた時のスカウト連でした。彼らと昔の自分をだぶらせながら、7団はちっとも変わっていない、自分のやった種出決して無駄ではなかったと、努力が報われた気がしました。

30周年という長い年月を、7団はただ前に過ごしてきたのではありません。もちろん途中で止めていた時間もありますが、7団の個性を持った人間をたくさん社会に取り出してきたのだと思います。リーダーの胸、やのジャケットに刺繡された“Spirits Forever”、その意味では30周年は単なる通過点ですが、日々努力を重ねているスカウト、リーダーに心から「おめでとう」と申し上げます。

【昭和57年～平成2年：BS】

“in ACTIVITY (30th-20th) / many people”

黒坂 宏

ちょうど10年前、20周年の記念式典、記念誌を作製した際ですが、その時中心になっていたメンバーは、

鈴木 信之氏（当時ボイド隊長）

野沢 慶彦氏（# 副長）

酒井 勇一郎氏（# ）

佐藤 光俊氏（# ）

と私あたりでやっていたような記憶があります。（もっている人がいたらゴメンナサイ）私は当時カブ隊の副長でした。その後、カブ隊の隊長を経て現在はボイド隊の隊長を務めさせていただけております。最近感じじるのですが、何かリーダーの中でも世代毎のカラーというのを感じ取るのはないかということです。何故そういうものに影響しているのか、考えると、私の世代までは、ボイド隊を終えるまでは、東京257団という名称であり、また現役委員長である、高橋宏人氏がボイド隊の隊長として活躍している時代でした。何故こんな事を言うかというと、カブ隊→ボイド→サンニア隊を経て、リーダースタッフになった人達を見ると、ボイド時代のカラーを非常に強く感じます。一番感受性や影響を受ける世代のボイド隊あたりにあるということになるのでしょうか。ボイド隊の隊長はその後、鈴木信之氏に交替してその後私が務めさせているわけですが、まだリーダースタッ

フの中に私が隊長でボイド隊を過ごした者はおりませんが、鈴木隊長の下でスカウトを過ごした者がどんどん加わってきています。これは、まったく私の主張なのですが、やはり鈴木氏のカラーを感じます。だとすれば、数年後には、私が隊長でボイド隊を過ごしたスカウトがリーダースタッフになる時が来るわけですが、その時彼らに私のカラーを感じることができるでしょうか。楽しみでもあり不安でもあり、同時に隊長という任務の重大性を感じます。

【昭和62年～平成2年：CS】

【平成2年～平成7年：BS】

「振り返って感じたこと」

相澤 善正

平成2年10月にカブ隊長になって、早いものでもう5年近く経つことになります。とにかくがんばらにやってきたなーというのが正直な気持ちです。振り返ると、失敗したことばかりが思い浮かびます。

その中でも特に強く心に残っていることは、2年前の3月の日の出山ハイキングです。このハイキングで私はスカウト全員を行方不明にさせてしまいました。きっかけは些細な事で、山間にいたリーダーの指示ミスだったわけですが、隊長が指示内容を把握していないかった事、隊長の資格に対する甘い考え、計画の甘さ等々総ての原因で隊員に行き着くことを身にぬみて考えさせられました。祐局警部の御世話になり、たちどころに事件は解決しましたが、このときスカウト連は自分達自身の山開けで山を登り返し、またま山頂に居たアマチュア無線サークルの学生さん達に事情を説明したことによって、無線の交信相手の方を通して警察に連絡することができ、早期に解決することができたのです。そのこと聞くに及び、隊員などと語っていても、「あーー、なんて自分は無力なんだろう」と胸をかきむしられる思いがしました。

このような体験を含めて、私が一人のスカウターとしてこの運動に取り組むとき、いろいろな教訓がそこにあり、ここにあると感じてます。さらに隊長とは、それを真光に肌で感じることの出来る役務であると思います。確固たる教育理念を持つボイスカウト運動、私を今まで成長させてくれた、すばらしい伝統を持つ野7団。そして、今後もあなた達のことを教えてくれるであろうスカウト連には、心からいきさかであれと願います。

【平成2年～平成7年：CS】

【第1章】

歴代隊長

当時を振り返つて

1965年(昭和40年) 「誕生」

1965年6月11日。

東京第168団(中野第4団)より分社し、東京第257団が新設された。

高橋麗子団委員長(現育成会会長)、伊藤和実会長(現中野10団団委員長)を中心とし、スカウトはシニアースカウト7名という小さな団は、"眞のスカウティング"を目指す強い意志と熱い情熱で、力強く確かに一步を踏み出していった。

我が中野7団の誕生の時である。

1966年(昭和41年)



[岡山ジャンボリー]

8月：岡山県日本原

4年に一度のボーイスカウトの祭典、「日本ジャンボリー」。中央の2人の間に揮く「2・5・7」の団号旗。左側が柴田隊長、右が福崎隊付けです。黒のサングラスで決めてかかれば都会のスカウトに見られたのでしょうか。

[西武地区合同訓練]

東京郊外の森の中、西武地区のボーイスカウトが集まっての合同訓練です。

大きなやぐらを2つ作って、レインジャーをやっているところです。西武地区のボーイスカウトが集まつただけに、スケールの大きなものでした。



C S隊発足後の恐らく一番最初の記念すべき写真です。

最前列には柴田守隊長(現杉並地区委員長)、最後列には福崎理副団委員長、座寺(鈴)氏(中野10団)の横に見えます。

福崎氏に上れば、この時5年生だったにもかかわらず、ボーイの制服を着ていたそうです。

1967年(昭和42年)



[C S隊：武甲山合宿]

埼玉県の武甲山でのカブ合宿です。柴田隊長、和智副隊を中心に、みんなで撮った写真です。

後方に3人組のデジマザーが写っていますが、今の3団では想像も付かない20歳前後のお姉さんがスカウト達のお世話をとてもよくしてくれました。



当時のカブの合宿では、必ず寝袋をしていました。午前中のエネルギーの消耗分をこの程度でカバーして、これから続くハードなメニューをこなしていくのです。

最近のカブキャンプでは、この寝袋はありません。今の子供たちから見れば、とてもうらやましく見えるかもしれません。



[団4周年記念式典]

これはみんなで鹿パンツを上手に?改造してインディアンに変装しているところです。

この可愛いインディアンのなかにも今はすっかりオジサンになってしまったリーダーも混じっています。



[CS隊：高尾山ハイキング]

お弁当を食べた後でしょうか。
“一人の衆さん”を説いているところです。

先頭は柴田隊長、後ろは高橋園子
団委員長（現育成会員）です。
北村鶴子元CS隊長もデンマーク
で育っていらっしゃいます。

[BS隊：戸隠キャンプ]

白樺の森が美しい戸隠のキャンプ場です。それはさておいて、カメラを気にしないで、しつかりプライドを張らないと、雨が降ったらプライドが損ねちゃうぞ！



[初めてのバイオニアリング]



雨の中での信号塔作り。
全員一丸となって我が冠初めての試みに歓喜。6時間かかってやっとでき上がり、記念撮影をしました。

この頃から、実力の7団（当時257団）の片鱗をのぞかせています。
(脚材は全員が修得したもの)

[BS隊：夏キャンプin戸隠]



今回のキャンプは全期間雨という、とても厳しいキャンプでした。なかなか火が付かず、食事が出来なくて大変でした。しかし、いつも一番早く火をつけ食事をするのは、このハヤブサ班でした。中央で火を付けているのは現在の飯野副長。他の班が工作物を作っているあいだも、焚き付けの薪を爪楊枝の細さまで削り、荷はビニールに入れて抱いて寝たそうです。

「技術はダメでもメシは一番のハヤブサ班だった」は本人の談。

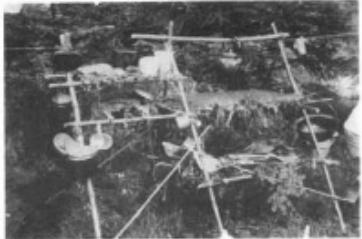
1970年(昭和45年)

〔第5回日本ジャンボリー：静岡県朝霧高原〕



第5回日本ジャンボリーでのスナップ。格闘からの型成隊だったので、なかなか大変だったが、みんな楽しく過ごすことが出来ました。

〔BS野辺山キャンプ〕



立ちカマドと食器棚を組み合わせた工作物。竹とロープで手作りしたもので、右側で煮炊きし、食器を片づけておけるよう工夫されています。

1971年(昭和46年)

〔ハヤブサ塙〕

〔夏期野営：東京都羽村町〕



〔立ちカマド〕



立ちカマドは烟りカマドと違って立ったままで炊事をするものです。立ちカマドに慣れてきて火がよく燃えて、食事の仕度もさぞかし楽だったでしょう。中央でヤカンを持っている武蔵隊長の姿も若々しい。

1972年(昭和47年)

<ハイキング>



[B S隊夏キャンプ：野辺山]

旗邊山に迫跡ハイク。当時の夏期キャンプは6泊7日で、ハイキングは4日目に実施されていました。このキャンプでは、受験勉強を理由に滑るスクウトが多く、全員での活動はここまで、と残念な限りです。ちなみに、1人だけになってしまった班が2班ありました。

<レインジャー訓練>

写っているのは鈴木前B S隊長。見よ！農作業で撮れたこのポーズを！（この意味が判る人だけなり道ですよ——當時上井草の辺りは一面の緑でした）

実は緑の前に高橋隊長（現田委員長）が命綱のテストをした際に事故発生。何と原因は命綱が長すぎて手を放した瞬間に地面に叩きつけられるという事件でした。



<バイオニア訓練>



今信号塔に比べれば珍しいと見すららしいですが、当時は保有している丸太の数も少なかったので、リーダーサイトの食卓やベンチを一時的に流用したり、林の奥のほうへ分け入って木を倒したりして何とか作り上げていました。見た目は貧弱ですが、信号塔を作り上げる情熱は今に比べて見劣りはしません。

1973年(昭和48年)

[B S隊：湯の丸キャンプ]



“湯の丸キャンプ”的優秀班、最後まで一人も欠けずに良く頑張りました。班長は鈴木前B S隊長で、一番左の班旗を持つている人です。龍沢C S副隊長は中央においてまだ初蹴スカウトでした。この時代はホーク班の全盛期で2年連続最優秀班を取りました。

[CSハイキング]



五日市の盆坂川へ行った帰り沢戸橋付近の砂利置場。先頭を歩いているのは森寺(森)副長、女性リーダーが北村隊長。今日の弁当はおいしかったかな？

[サヨナラ会]

これはサヨナラ会でのアトラクション、丸太切り競争。当時としては超豪華賞品だったコラフス（今で言うカルビス）がめぬぐでいるとあって、カメラを向けても誰一人ポーズを取る人はいません。從って誰が一生懸命切っているのかは不明。

P.S.: スカウト諸君。今の賞品の豪華さを有り難く思いたまえ。



1974年(昭和49年)

<ワン苗の雄姿>



<水泳草の水中脱衣訓練中の伏谷君>

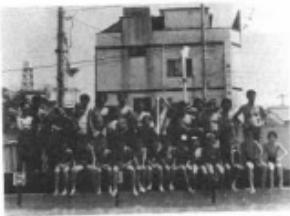
[BS夏キャンプ：駒ヶ峰]

ワイドゲーム「ゼットキ・ボリバ
ン・シーザー」の優秀班。
ゲームでは無敵の強さを誇ったワ
シ田士。朝・夜の点検でも地元に
得点を重ね、このキャンプでの優
秀班も取りました。



[水泳大会]

当時流行の解パン・パミューダー
カットスタイルの上にズボンを着
用したため苦しそうです。
毎年行なわれるこの選手権で、皆水
泳界にチャレンジしました。



水泳大会が終わると、7団の夏も
終わります。楽しかった夏休みや
この半期を振り返り、後半の活動
準備を始めます。みんな一回り大
きくなつたみたいですね。

1975年(昭和50年)

[CSキャンプ：佐渡大町]



上の2枚の写真はみんなでモンキーブリッジを作っているところです。左の写真は跳躍のために
デンチーフが苦労しているところです。
右の写真では、そんな苦労もどこかに飛んでしまい、楽しく渡っているところです。

[GBキャンプ]



各班の大黒柱になるためには、皆
GBキャンプを経験しますが、こ
のキャンプの特徴は、マッチ2本
と新聞紙半分で火をつけるといつ
た厳しいものです。
左の写真では3やつのときのくつ
ろぎの一時です。
左側ではいしそうにダンバを食べ
ているのは今や女子校の先生にな
った酒井くんです。

1976年(昭和51年)

<現地人>



[BS夏キャンプ：中山高原]

「ついでに発見しました！現地人です」
浮浪者のような汚い恰好をしていますが、黒板BS隊長です。

<立ちカマド作りの名人>



福嶋藤四郎委員長は昔から手が器用で、暇さえあれば色々な自然物でスプーンなどを作っていました。
この立ちかまども自慢の手先を生かして福嶋さんが作ったものです。

<SS隊：100kmハイク：中野～三浦半島衣笠>



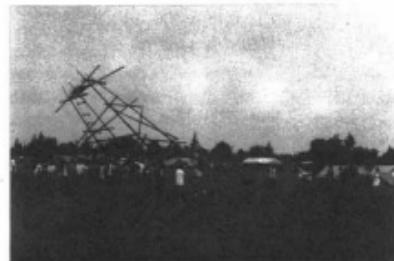
目的地衣笠まであとわずか。この頃になると休憩時間が多くなり、次の電柱や信号などと10分間隔位に休んでいました。

写真では明るく元気な表情ですが足は痛むはず、頭は引きつりながらの歩行でした。

見事全員完歩ましたが、この時の話は今でもリーダーの語り種です。

1977年(昭和52年)

<西武地区キャンポリー：練馬区グランドハイツ跡>



8月の末に行なわれた西武地区最後の地区キャンポリー。場所は今のがヶ丘団地です。

この写真は7団を中心として信号塔を作っているところです。昔は東京にもこんないい場所があったんですね。

<進級式>



[BS夏キャンプ：奥塩原]

右の写真はキャンプファイアーでの一コマです。楽しく歌って踊った後の進級式。一番手前は野尻現BS副隊長、一人おいて黒板現BS隊長です。

みんな黒板隊長から「1級章」を貰っています。

<到着！>



[SS移動キャンプ：佐渡]

最終目的地、小木町へ到着した瞬間です。みんな元気そうですが、実はクタクタのはずです。

右から、太田、滝沢(現CS副長)、黒板(現中野10番)、雨宮、山崎。

1978年(昭和53年)

<バイオニア>



[BS夏キャンプ：日光小倉山]

丸太と荒縄を使ってのバイオニアリング。今回も野営地からみんなでトラックに乗り、河原での操作でした。

この時はとても暑かったのですが、完成してみんな笑顔です。

<ハイキング>



鳴虫山へのハイキング、山頂でのスナップ。リーダーよりもスカウト達の方々元気良く、先発のリーダーはとても苦労しました。

この時は後発の東野町駆け足を間違えてしまい、アザミ繁る野原を突っ切ったことは、今でも語り草です。

<夕食会>



2日の夜、みんなが楽しみにしている夕食会。7回特注の鉄板(吉村現中野地区ミッカ作)を使って焼きそばを作っているところです。除付、リーダーは熟さと煙たさと戰いながら調理します。高橋隊長が手にしているのは、「因人食器」と呼んでいる昔のアルマイト製給食容器です。

1979年(昭和54年)

<ハイキング>



<ハイオニア>

[カブキャンプ：和田岬]

3日目に行なわれた鰐ヶ峰ハイキング。天候に恵まれましたが、ゴールの八島ヶ原温泉では二川選子になり(そのうちの一人は指導員CS隊長がデンマークをしていました)、リーダーも汗だくになって1時間も走り回りました。

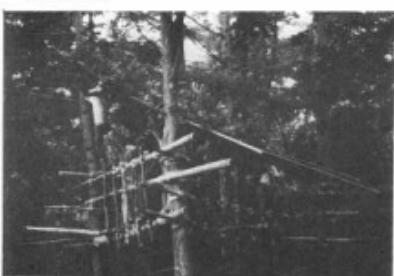
ちなみにこの写真はこのハイキングで撮影した6枚です。

(残念なことに今のスカウトでのエビ茶の粗麩を見た者はいません)

[BS夏キャンプ：清水ヤマ場]

今回のハイオニアリングでは、3本の立木を柱にして地上2メートル程の空中に小屋を作りました。(初めての試み!)

この晩スカウト達はこの小屋に泊まりましたが、下に落ちる不安と、昼間の興奮でとてもハッスルした夜でした。



<立ちかまど>



キャンプでは各班毎に立ちかまどを作って炊事します。

立ちかまどには以下のメリットがあります。

①風通しが良いので火がよく燃える。

②作業性が良い。

③絆材法の導入になる。

1980年(昭和55年)

<わりばし鉄砲>



<栄光の7団>



[B-S 夏キャンプ：東京ナカノ]

東京遠盟のB-S隊が全て集結して開催された第1回東京キャンボリー。その中で我が7団は、信号塔を立てその上に旗のぼりをつけました。会場ではその雄姿が一際おり、7団のサイトが一日で判るシンボルになりました。

<SS 移動キャンプ：徳律～浜松>



80年度シニア隊の大イベント、移動キャンプ。今回は純粋から浜松までの東海道となりました。眠い目をこすって、朝早くから準備して、出発前の懇親した(?)顔で、ハイ！ポーズ。

「さあ、どんな隧道中になります。やら」という顔で、高橋園子団委員長もお見送りです。

1981年(昭和56年)

<はらどうだい>



[CS mikain狩り：三浦海岸]

左側は小林規B-S副長。袋一杯みかんを詰め込んで「はらどうだい」と言わんばかり。

スカウトの父兄にも初めて参加してもらったハイキングで、この後三浦海岸でゲームをして楽しみました。

<わらじ作り>



[B-S 夏キャンプ：日光小倉山]

「わら工房」指導員でもある服部副長の指導のもと、わらじ作りに挑戦！ 中にはダンゴになってしまった物もありましたが、ちゃんと使えます。

[SS 100kmハイク：中野～熊谷]



7団2度目の100kmハイク。中野～熊谷間を2晩歩きっぱなしのハイクです。はじめの50kmはみんな元気そのもの。残りの50kmが苦難ですねはるか、ママをいじるか、のどちらか。路の端でも宿まで歩いて往復行な行な行。。。キーワードは、「ケツヅレ」「肉汁」「トイレットペーパー」。

1982年(昭和57年)



[カブキャンプ：那須霧照寺]

スカウトと共にリーダーも燃えに燃えたキャンプファイヤーでした。リーダーの衣装、苦労したんだよ～。ところで福岡隊長(一番左)！そんなことしていいんですか？！



[SS 中野地区キャンポリー]

これより7団と11団の合同集団移動の移動野営のスタートです。これから地獄の3泊4日が来るとは知らず。元気ハツラツの6人です。

左より、藤巻、吉岡、相澤(現CS隊長)、岡本(11団)、高野。

(このポーズは当時流行っていたホンダ・シティのCM)



[SS 50km：中野～千葉]

ゴールの千葉駅で記念撮影。さすが男二ゴールでは、全員さわやかな顔ですね。

1983年(昭和58年)



[スカウトの集い：中野二中]

梅雨の合間の青空の中、行なわれたスカウトの集い。7団は中央の位置に陣取ってヤグラ太鼓を立て盆踊り。祭りも終わって一段落したところでハイ！ボーズ。



[BS 夏キャンプ：白州]

年間最大のイベントである夏別野営の発团当時からあった夕食会。毎回、鉄板の料理が好評で、今は焼きそばとポークソテーでした。ところで、中央のたらいでサラダを作りましたが、良く見ると下に敷いてあるのはアルミホイルではなく、何とビニールのゴミ袋！ワイルド！！



[SS 移動キャンプ：北海道大沼]

とにかくバックに広がる大平原をご覧ください。説明は無用です。んー広い！



[カブキャンプ：秩父小櫻庄]

写真なんかでポーズをとっていると、スイカが無くなっちゃうよ！ ちなみに福島隊長は宇野君の隣でしっかりスイカを選んでいます。



〔BS漂流ハイク：被布島〕
ストーリーをその時の手紙から。
「中野：グリコ本社にドロボウが入り、お菓子の新製品が3種類盗まれた。すぐに犯人を追え！」
「浅草：犯人の一粒出番外に逃げる恐れアリ、至急油箱せよ！」
「羽田空港：犯人のゴミは空港の警備が厳しいので飛行機を詰め、船で逃げるらしいとの情報が入った。」

<波とたたかわれる2人>



[S S移動キャンプ：三宅島]

目的地に早く着きすぎたので、海岸へ散歩に行きました。
海辺にあった丸太の上に乗って波が来てもどこまで耐えられるか…
なんてことをやっていたら相模副長捕は見事に落っこちてしましました。

[カブキャンプ：道志村]



出発前の注意を受けているところです。これから始まるカブキャンプに備えて、みんな真剣に緊張 水温は冷たく、リーダーは丘の上で震えています。
気味の表情をしています。



近くを流れている道志川で川遊び。 真夏とはいえ 水温は冷たく、リーダーは丘の上で震えています。
スカウト達は元気そのもの！



[S S春キャンプ：水無川]

新人にとっては初めてのキャンプ。
今年は大体もよく順調にプログラムも進みました。前列左から2人目の柳沢君は前夜キャンプファイヤーでもらった特修章で自慢そうにポーズを取っています。

さて、新人たちは今夜家の市団の中でどんな夢を見るのでしょうか。

[S S移動キャンプ]
小樽～石狩～札幌

小樽の公園の中で朝食の仕度をしていると、ラジオ体操で集まってきた子供たちに囲まれ困ってしまった？ところです。
移動キャンプでは、こうしたその土地の人との交流がよくあるものなのです。

« 特別寄稿 »

中野10団ローバー隊 西 祥広

栗田30周年おめでとうございます。私は、栗田当時、小学生～大学に到るまで257団で御世話をになりました。BS隊々長には、当時新井小で教鞭を執っていました伊藤先生が、(現10団)勤められ、私が中学にあがると、高橋宏人隊長に交代となりました。中学生の自分には、大学生という人種が、とても新鮮であった事と、当時のリーダーであった、高橋、篠崎、和智、松本さんら、大学生の面々が、楽しそうに語り合う大人の世界に常にあこがれをいたしております。当時は、月3回の隊集会、月1回の班長会、夏季野宮は一週間、予備野宮まであった様に記憶しています。遊びキャンプ、班ハイクがプログラムに組まれ、常に班同志の競争がありました。各班は、自分が得意分野を確立する様努力し、他班のそれをまかず工夫をしました。個々のレベルでも同様で、班長は、班員に技術を徹底する事が、班对抗を制する上でも、重要な任務と認識していた様に思います。

そんな環境の中で、個々は次第に自信を深め、皆が隊長の影を追っていたのではないかでしょうか? 高橋さんが、指導の現場から離れて、各隊のリーダーが、依然として昔乍らの7団の個性を守りつづけているのが、その証しであると思います。

7団の今後の益々の御発展と、高橋委員長はじめ、皆々様の御健康を御祈りして、称榮を贈ります。

§2 最近10年の活動

1986年(昭和61年)

<高尾駅>



【カブキャンプ】

8月19日～22日：渋里

このときのカブキャンプは、
純行電車で行きました。
今はもうリーダーになってしま
る、花井、国島、鈴木、吉田の
顔が見えます。

<点検>



1組の朝の点検風景です。み
んが神秘的な顔をしてリーダーの一
話を聴いています。

この時の宿舎はハンガローだ
ったのですが、そのハンガロー
というものがコンテナに入口と窓
をくり抜いて、中は壁書きにカ
ーペットで玄関もないという簡
素なつくりでした。

<選手宣誓>



【B S G S 合同運動会】

10月26日：江古田小学校

第2回の合同運動会は B S 7
・10・11団と、G S 4 5・
4 6・118団で行なわれまし
た。

このときはチームを小学～高
校生のスカウトをランダムに4
つに分けて、高校生のスカウト
にチームリーダーとして、頼
ってもらいました。

<ピラフ作り>



[月の輪キャンプ]
埼玉県奥秩父山キャンプ場

このときの月の輪キャンプはスカウトはバンガローで1泊し、翌日はBSと合同の親子バーベキューでした。

<船の科学館>



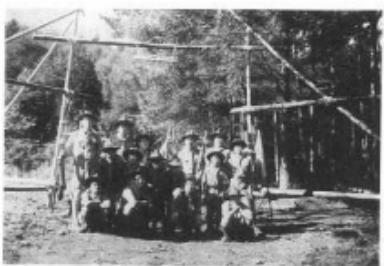
[上越ハイク]
3月29日：船の科学館

午前中船の科学館を見学し、午後は水上バスで竹芝まで行き、ここで上越スカウトはそのまま船に乗り、浅草でBSと合流しました。

残ったCSは愛宕山の放送博物館と虎の門の自転車博物館を見学しました。

船の科学館見学記念

<ゲート>



[夏キャンプ]
長野県梨平キャンプ場

今回のバイオニアでは、ゲートを作りました。写真では見えませんが、ちゃんと扉のついた本格的なものです。

<表彰式>



キャンプファイバーの後の表彰式。幹木隊員から2種章をもらっているのは小池武。(現C S副領) 今日からナイフと鉛解禁です。

<お誕生日会>



調教園のほとりにある小高い傾斜でのショット。
昼食時の課題は、「調教園の距離を図れ。」
さてどうする？

<変身>



キャンプファイヤーの劇とい
えば眞木監。彼の作る脚本、絶
品。レインもかならず巨大化して
世界を恐怖のどん底に陥れるト
チギーラに変身。

<コンドル班>



コンドルサイトでの写真。
結構人がいます。左端のコンドル
班頭に注目。コンドル班の班
頭は、竹でできていて、しかも
短い。B.S隊中でも最軽量でした。

<多摩川の渡し>



【上池ハイク】

この時の上池者は、小池君
(現C.S副長)のみ。班長次長
が、丸太で出来たみこしに小池
君を乗せて、多摩川を渡りまし
た。

1987年(昭和62年)

<川遊び>



[カブキャンプ]
秩父大滝村

荒川源流で川遊び。
水の冷たいこと冷たいこと。
それでもスカウト達は元気い
っぱい。
坊主頭の國島君ジャンプ。

<ポンチョDEキムス>



幕場の檻から現れた、不気味
な男。雨でもないのにポンチョ
を被っていましたが、ぬぐると30
種のアイテムが張りつけられて
いたのであった。
ポンチョマンのループ。



<ランタン祭り>



【月の輪キャンプ】
川井キャンプ場

ボーイ隊の歌をおぼえよう、
というテーマで、黒坂隊長より
指導。「ジャマイカ土人のイエ
ール」。"ハイセイハイハーハー"の
あの歌。

<白銀の世界を行く>



【上進ハイク】
陣馬山～相模湖

大雪の中の上進ハイク。この
あと相模湖への下りは危険でした。
午後で雪が融け、南向きの
斜面は泥地獄と化し、相模湖の
駅では全員体を洗ったほどでした。

<ちょっと一息>



【春キャンプ】
山北

ハイキングの1コマです。1
番手前のコンドル相士、当時7
人。今では想像もつきませんね。

<必殺落殺人 山崎佐鈴木>



【夏キャンプ】
南軽井沢

生きているニワトリの首を切り、調理しようという、7団ならではの企画。山崎君(現B S副長)の持つ薙刀が、今、通の前に迫る! ところで、斬首シーンをみたくない人が後ろを向いているのに、笑いながら楽しそうにみている鈴木君(現B S副長捕)は、あぶないんじゃないでしょうか?

<原始人の源さん>



この人は一体だれなのでしょう? この人は、土方の王者。その名も原始人の源さん(佐藤副長)です。

ハイキングで、スクウトが要求されることになるのですが、佐藤副長は、実際にこの格好で南軽井沢を遊び回っていました。

<サリン事件>



大変です！キャンプサイトにサリンがまかれました！（うそ）マスクをかぶって遊んでいるのは、野尻副長です。

<裸足の健太郎>



[水泳大会]

夏キャンプの後は、毎年ゴールドの海で水泳大会。キャンプのあせ臭さとは、無縁の世界です。

1番左の池君（現C.S副長）は、サンダルを忘れて少し脚が引きつっています。

<メモってメモって！>



[隊集会]

鈴木隊長の話しきを、熱心にメモしています。今日は地図とコンパスのレクチャー。

きっと後で何かあるので？みんな真剣です。

1988年(昭和63年)

<ポンチョマン>



[カブキャンプ：丹波山川]

この時のカブキャンプは、経りに凝った内容でした。

写真にあるような「ポンチョマン」なる怪人が複数を数え、3日間のスケジュールは全てこのポンチョマンからの呼び出しという形で小ハイク、きもだめし、大ハイクなどのプログラムを進めました。

スカウト達は「どうせリーダーがやってるのさ」と考えていましたが、その裏をかくためにリーダーも結構苦労しました。ポンチョマン役は、リーダーが日替わりで担当しましたが、圧巻は3日目から参加した肥前副長で、朝到着したにもかかわらず、ポンチョマンにならためにスカウト達に知らせずに、逆からハイキングコースを登り、役が済んでから急いで山を下り、スカウト達が下ってきたところへ、さもい生到着したよとはめりに現れるという段取りを組みました。さすがにスカウト達もこれは説明が判らなかったようです。

これは、今だから明かす秘密で、今やS.Sになっている当時のスカウト諸君への説明が少しください。

このときは、リーダーも乗りに乗ってやったキャンプで、今でも思い出深いです。

<お腹呂>



[点検]



<余裕の堀原>



【隊集合：レインジャー】
9月18日：哲学堂

秋の恒例、妙正寺川横断レインジャーです。

残っている写真は堀原君です。
右足で巧くバランスを取って、
います。カメラを向けられ、微笑む余裕もあります。

このとき見事硬り切った名譽
あるスカウトは、
横山、京野、長沢、須田、
堀原 の5名でした。

<得意気な須田>



<多摩動物園にて>



【観子ハイク】
10月16日：多摩動物公園

秋の休日、動物園で観子共同
でポイントトリーをやりました。
動物たちのスケッチをしたり、
特徴を観察せよという課題に取
り組んだり、絶好の天気のもと
楽しハイキングでした。

<お昼だよ！全員集合>



【スカウトの集い：運動会】
西井町公園

今回の、スカウトの集いは、運
動会です。これは、リーダーの
昼食風景。

<COOL BOYS>



ちょっと休憩。何だかみんな
今日はかっこいいね。それもそ
のはず。今日は、ガールスカウ
トがいるからね。

<駒馬軒>



「いざ、出陣！」
上に乗るは花井君（現CS副
長）。下の駒馬は古田君（現
CS副長）。

<カメラ日録の小他>



[赤い羽根の共同募金]
10月1日：中野駅

「おーい! 池君。カメラ日録
もいりけど、募金のほうもよろ
しく頼むよ！」

<えらいぞ！国島>



「おっ！ えらいぞ！ 国島君！
(現BS副振袖) でも、気を付
けて！ むねにさきないように！」

1989年(平成元年)

<ナギンデー>



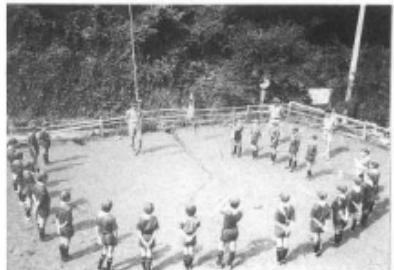
[カブキャンプ：釜ヶ瀬]
8月1～4日

地元に伝わる奇祭「ナギンデ
ー」を、民宿のご主人のワッテ
イング&指導の元やっています
火の付いた藁束を地上3メート
ルの高さに掲げた藁の塊に向
かって投げ、見事藁の塊に火を
付けることによって、その年の
豊作を祈願するという由来だそ
うです。

カブキャンプはこうした、普
段体験することの出来ない、筋
られた先の風俗・習慣に触れるこ
とのできる機会もあるのです。



<朝礼>



当時は4組までありました。
社説を眺めます。

『最優秀組』



閉会セレモニーでの、最優秀組の表彰です。
メンバーは左から、
萩野(撮影)、三村、荒井、伊
牟田、坂木、長沢、田中(次長)。
振り返るに、この10年間で
チームワーク、バランス、リーダーシップ等々、最強の組でし
た。

『雨の今船山頂』



『上進ハイク：沢戸嶺』

折りあたかも、連続幼女誘拐
殺人事件で日本中が大騒ぎして
いる時期で、事件の舞台の一つ
だった五日市の山に行くという
ので、スカウト達はそれだけで
もうきもだめし以上の恐怖感情
をもっていたようです。

『バスの中で』



『春キャンプ』
木無川

帰宅のバスの中、春キャンプ
ではおめでた1コマ。2泊3日
の短いキャンプ生活ですが、それ
だけに、内容も濃く、みんな疲労
がこもっています。それでも明る
さを失わないのが7団のスカウト。
カメラを向ければ、大はしゃぎで
すが、その顔は、キャンプ前に比
べて、少し成長しています。

『ポリタンワッショイ！』



『夏キャンプ』
三井の森キャンプ場

暑いキャンプ恒例の水遊びよ
びよびになるゲーム。相手のポリ
タンの中の水を、多くこぼした方
が勝ちというゲームです。作戦云々
よりも、ただひたすら体力勝負
という感じですが、ゲームが終わ
ると、みんな泥だらけ。それにし
ても、リーダーはよくこんなゲ
ームを考え出すなあと、この感想
たものです。

『小屋？』



バイオニアで作った小屋。みか
けは簡単ですが、これはスカウト
の、汗と涙の結晶です。この日の
夜、小屋の中で寝てみたりですが、
蚊に刺されてしまい、あまり寝心
地は良くありませんでした。でも
満足感が得られただけでも十分、
……、でもないかな？

<集合写真>



閉会セレモニー後の集合写真。このときのキャンプは、非常に人が少なく、ベガス班とスクローワン班が合体した班と、コンドル班の間で最優秀班が選ばれましたが、合体班の勝利となりました。賞品は一つでしたから、どちらの班のものになったのでしょうか?それにしても、キャンプは、大人気で行きたいものです。

<BOYS & GIRLS>



【オーバーナイトハイク】
中野駅～葛西臨海公園

オーバーナイトハイクでの1コマ。この年は、ガールスカウトと合同で、行いました。と言っても歩く距離は例年と変わらないので、ガールの方には、少しきついったかもしれません。おかげで次の年からは、声がかかるないとか。

<湖のほとり>



オーバーナイトハイクで、初日 の出を控んだ後の1年で最初の食事。気温が低く、とても寒いので、このあつたからおはるはるには、薄而出そうになりました。
とにかくにも1年のスタートです。

<駅前にて>



【移動キャンプ】
北海道函館駅周

このときは、北海道の最高気温をマークした時で、非常に暑い移動キャンプになった。

<DOODOO>



北海道の道は、堂々としてるよなあ。

<サンタフェ>



本当に暑いキャンプだったので、みんなで海水浴ならぬ、湖水浴。「小林君! (ナンちゃんこと小林B.S副長) おしゃりまる出だよ!」「あおむけ出だせ! おおむけ出だせ!」

1990年(平成2年)

くわやすみ



【カブキャンプ：秩父大滝村】
8月17～20日

就寝前の1ショット。
飾りつけがなかなかGOOD。

くいただきます♪



食事風景です。今回のキャンプ地は3年前と同じ民宿滝川でした。過去にあちこちのカブキャンプをお世話しているらしく、天井に懸る凶山のオッカチーフが飾ってありました。

くお握りと豚汁♪



2日の昼食は、皆で民宿の前の庭で飯盒炊さんでした。

おもいおもいの手の湯にぎりと豚汁を作りおえ、満足げな表情を見せている1組の面々。

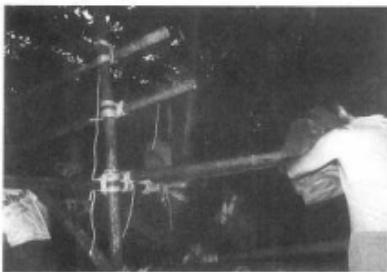
くルバシⅢ世>



ハイキングのテーマは、ルバシⅢ世になろう」。

写真の本沢君と福原君は「モミアゲ」を付けています。

<雨中のシャワー台>



[夏キャンプ]

今市

今年のキャンプでは、バイオニアリングで、シャワー台を作りました。しかし、完成するや否や、空から天然のシャワーが。哀れ一回ずぶ濡れに。

<トイレ用テント>



食事中のコンドル瓶。鈴木君(現BS副長袖)と、国島君(現BS副長袖)が寄っています。右側の小さなテントは、トイレ用テントです。
「くっさ—————い！」
ちょっとテントサイトに近すぎないかも？

<何みてんばコラ>



高橋田委員長と、鈴木隊長(現在イギリス在住)のツーショット。鈴木隊長は、このキャンプが最後のキャンプになりました。

<The 7日's Game>



水を漬たしたドラム缶の底にあるコップをとって、点数を競うゲーム。始めおいやがっていたスカウトも最後にはこんなようになりましたね。や相田副長の飲水サービスもなんともおもわないので。。。

<団委員長の十八番>



団委員長が大喰火でするものと言えどこれ。「チエッチエッコレ、チエッコリサ…」言葉の意味はよくわからないが、とにかくすごい演技(?)だ。

<スカウト集合>



スカウト総勢8名で、かつ途中で1人が帰るという、仲間に比べての少人数キャンプでしたが、内容は結構充実していました。
最終日なのでクタクタだけど、気合いで各自思い思いのポーズを取っています。



[SS移動キャンプ]
富士五湖

遠方に暮れている様子が伝わるでしょうか? どこまで歩いても権場所が見つからず、道端で立ち止まつたら最後、再度動きだす気力が無くなってしましました。シニア隊の移動キャンプでは、こんな事がよく起ころうです。



何気ない場の写真ですが、実はこの場所には忘れない思い出が詰まっているのです。富士宮市の市街地に近いため空き地が少なく、やっと見つけたこの権場所は朝起きると何と日の出には立派なお墓が存在していたのです。4名いたうち2名が何か気配を感じたそうです。

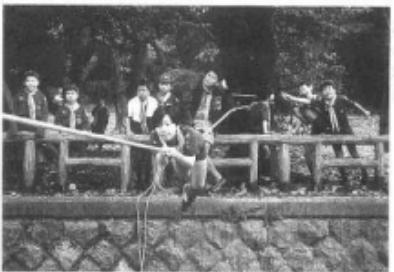


[SS移動キャンプ part2]
城ヶ崎

今回はある変わった理由で、今年度2回目の移動キャンプが行なわれました。その理由とは、「櫛木(茅庭右衛)にも新しいアントで寝かしてあげよう」です。案の通りだったので、手箱ハズレの権場所はとても冷たく、防寒具なしでは堪えられないキャンプでした。

1991年(平成3年)

<レインジャー>



<フェリーにて>



ハイキングで鷹山に行ったときに乗ったフェリーです。
左から、
三村、荒井、増田、櫻木、中里。

<鷹山にて>



鷹山山頂で、ハイ!ポーズ。
「ほれほれ!俺が前だよー」とせり出しているのは本沢君。

<ちょっといたいけどがまんしてねクイズ>



【サヨナラ会】

「リーダーリーダー。何食べてんの？」

実はこれはクイズです。この中でワサビ入りのおにぎりを食べているのは誰でしょうか？

<年間最優秀班表彰>



「今年の年間最優秀班はベガス班！」

おめでたしもつとうれしそうにしなさい！！

<皆勤賞表彰>



今表彰されているのは皆勤賞です。
今年はCS 4名でした。右から、
鈴木、本沢(義)、本沢(義)、須田
(義)。

<技能章授与>



小池君が技能章を貰っています。
SS原宿君。SSは隊員と移動だけではありません。

ちゃんと技能章や事を取るんだぞ！

<日本丸>



【オーナーナイトハイク】

ゴールの精進埠頭でハイ！ボーズ
うしろの船が日本丸です。

1992年(平成4年)

<団本部前>



[キックオフ]
中野区一周ハイク

この時のハイキングでは、中野区最南端、最北端、藤島駅屋等を廻りました。
ここは団本部(高橋団委員長宅です)。

<虫取り>



[カブキャンプ：釣生]

坂本君すごい！ なんと虫かごの中にはトンボ10匹が！！

<風呂>



リーダーは必ず風呂の写真を取ります。う～んSEXY！

<イワナつかみ>



齊藤君はBSの制服を着ていますが、これは川を渡るときに足を滑らせて川に落ちてしまったため、イワナはちゃんとつかまえた？

<イワナの塙焼き>



「イワナつかみ」で捕ったイワナを塙焼きに。やっぱりこれが一番美味しいんだよね。
スクウト達も大満足。

<月の輪>



[月の輪キャンプ]

月の輪スカウト(5年生)は、ボーグ駆に上進する前に、必ず研修キャンプをします。
この月の月の輪は、
井上、広瀬、坂本、本沢、須田、鈴木の6名。

<バスの中／吉田副隊長>



[BSキャンプ：梨平]

バスの中で、出発してまもなく撮った写真。
吉田副長はさっそく歩道。
午後のプログラムに備えて寝惚め
です。

<大フライ前／三沢くんアウト>



みんなで建てた大フライの前で。
三沢副長おそいはい！ あ！
カシャッ！ ...
ちなみにこの席に隠れているのは
野原副長、相澤隊長です。

<ファイヤー係／高橋さん>



みんながハイキングに出ている間
キャンプサイトでキャンプファイ
ヤーの準備をするのは高橋君委員
長。
最近は毎年やってもらっています。
感謝。

<レインジャー／京野總叫>



<驚きよ～>



[秋キャンプ]

夕食後に行なうナイトゲームの一
コマです。右端にいる板本君は2
か月前にカブから上進したばかり
です。

「何もこんな夜遅くにゲームをし
なくていいのに...」何故かは
雨も降っていないのに雨具を着てい
るんだ?」などと思っているので
しょう。とても恥ずそうです。

<女装大賞>



[サヨナラ会]

C S隊の相澤隊長から今年最後の
重大発表です。

「発表します。このたび念願かな
って、遂に彼女が出来ました。」
(ウツ)

この彼女と後ろのはまさんは、そ
れぞれC S隊の京野君と都木君の
愛称です。カワイイでしょ?!

<夕食後 テントは...?>



[移動キャンプ in 四国]

夕食後の写真。
「ねえ、こんなに暗くなってきた
けどテント張らないの？」
「うん、張らないの」
（胸宿したそうです。）

<海辺でツーショット>



「うおー広いなー」
「むこうまで見えるなー」
「あそこまで歩くのか。」
「.....」

<ゆかたの元>



暑いの電車の中は大ハッスル。み
んなでトランプしています。
ねえ、元気。そのゆかたは何?

1993年(平成5年)

<スイカ大好き>



[カブキャンプ: 南薩王]

スカウトはスイカ大好き! (実は
リーダーも)
瀬上君(右から2番目)。一口で
食べたらサル歯です。

<信号塔の上で>



B S隊のキャンボリーを見学。
「初めて整った信号塔の上はどう
だい?」
「うはーつ高いーつけー」



キャンプとくればやっぱりカレー
ボーイ隊の作ったカレーはどうか
な? 「最高!」

カレーだけはよく食べるカブであ
った。

<水泳大会>



[水泳大会]

いつもキャンプの後の一筋目の集会は水泳大会。
このあとは楽しみの整理取り。スイカ割りだ!
うれしそうなスカウト達。

<月の輪>



[月の輪キャンプ]

今回は10団のスカウトも交えて行ないました。

<上進式>



[上進式]

今回の上進式でBSに上がっていく
ってしまうスカウトたち。
相澤隊長と最後の1枚。
左から、横山、渕上、本沢、池田。

<四角やぐら／信号塔>



[東京キャンボリー：南郷王]

このやぐら、どこかで見たな?
そう、第1回の東京キャンボリー
でも建てました。
他の地域のスカウト達もびっくり

<7団バーカー 1990Version>



このバーカーは今回のキャンボリーにあわせて、リーダーが作ったものです。
ここに7団の結束力が表れてるでしょ。

<表彰>



田口地区委員長から表彰されてい
る児島君。
みんなうれしそうです。

<つまみ食い>



[もちつき大会]

スカウト達が楽しんでいる最中、リーダーはいつもって準備で大忙し。これぐらいは許してね！
(左：三沢副長、右：武藤隊長)

<イタリアンにチャレンジ>



[料理隊集会]

今回けんかなかの出来だとは思うのだけれど。。。見かけはとっでもいいんだけれど、このニオイが不気味にさせてくれるんだよね。

<癡病>



[サヨナラ会]

第2部のゲームの一コマです。洗濯バサミを手にするカブ達は、とても楽しそうですが、あまりに多くの洗濯バサミをつけられた塙原君（左）は激痛で顔が腫んでいます。隊の阿部君はまだ余裕の表情ですが、武山つけないとゲームには勝てません。

<中野>



[S.S.移動キャンプ]
東京～御殿場～中山路～東京

今回は見てのとおり、自転車での移動キャンプ。
見よ！ この大きな荷物を

<ねるな横山>



もうクタクタで、半分寝ている横山君。ねるな横山、眠ると死んでしまうぞ（車にひかれて）

1994年(平成6年)

<最後の晩餐>



[カブキャンプ：中山高岡]

今回はBS隊と合同で、カブ隊にとっては初めての野営でした。食事は写真にあるようにリーダーサイトの食卓で食べました。

やっぱり食事のときはみんな元気！しかし、この後に恐怖のハイキングが待っているとは、このとき誰も知らなかった（リーダーも）

<猛暑のハイキング>



山頂での1ショット。眼下には青木湖、向こうには北アルプスを望む絶景。

しかし、そんな景色もスカウトの日には入らないようです。この日はとても暑く、昼食までに水筒の水を飲みきってしまったスカウトがほとんどでした。

等真土へトヘトの1組。

<レインジャー>



写真は1組組長の齊藤君。最初はみんなビシリまくり、泣きだすスカウトも。でもやってみたらあら簡単。結局全員渡り切って確認組長お手製のネットティングをもらいました。良かったね！

<やったぜ！>



[カブテリー]
所沢航空記念公園

このカブテリーは、ゲームをしながら公園内をめぐるというもの。2組は、見事に2位になり、賞品を握りしめています。
やったぜ！さすがは7団！

<離さないでBaby!>



[カブリンピック94]

これは、ゲームの題名ですが、内容はただのムカデ競争です。

ほらほら、しっかり相の人をつかまえて！離さないでBaby！

<オレンジGO!GO!>



みんな釣りです。左側で地面を釣っているのは矢部君。となりに戸塚君が、心配そうに見えています。おーっと佐藤君、（手前）ロープをゆがめて前に出たら駄目だぞ！

<宝探し>



[春キャンプ]
五日市故郷川

あつたー！けど找出いいつもここなのね。。。泳ぐのは嫌いやないけどまだ5月。木がちょっと冷たいんじゃ。。。リーダー、来年はもっと場所を考えてね。みんなが喜びっちゃうよ。

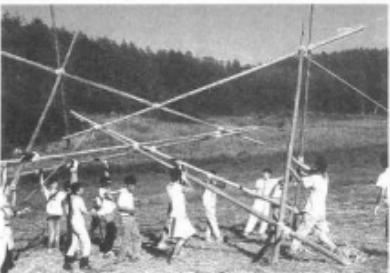
<ナイトOL>



[夏キャンプ]
中山高原

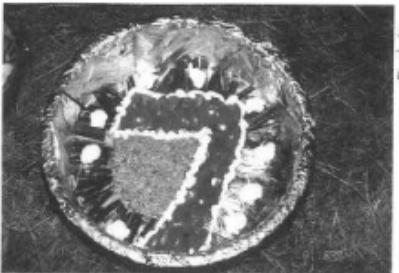
これは、ナイトOLの出発前の諸注意をうけているところ。
どの班も真剣ですが、残念ながら、OLの看板をみつけた者はなく、迷子になってなかなか返ってこない班もありました。

<ぐらぐらっと>



今年の信号塔作りは、大変でした。何故かというと、去年の大凶作で荒磯の質が極度に悪くブチツと簡単に切れてしまいタ方まで作りつづけてしまいました。とてもじや無けれど、今年は、誰も上に登れそうにありません。立っているのがやっとという感じです。これは、塔を建てる最中の写真。

<7団サクダ>



これは、夕食会出品の7団サラダです。作者は、私の友達が博かなれば、鉄人！高橋田委員長。

<矢切りの渡し>



[上進ハイク]
矢切りの渡し

カブ隊からボーイ隊にあがる際に7団では、ハイキングの途中で両隊を連絡させて引き渡しを行いますが、今年は、演歌でも有名な、矢切りの渡して行きました。

上進君は、久保君一人しかいませんで、心細いかと思いますが、ボーイ隊は、これとところではありません。ビシバシ燃えてはあげます。

<久保君をさがせ！>



この船のどこかに久保君がいます。どこにいるか分かるか？

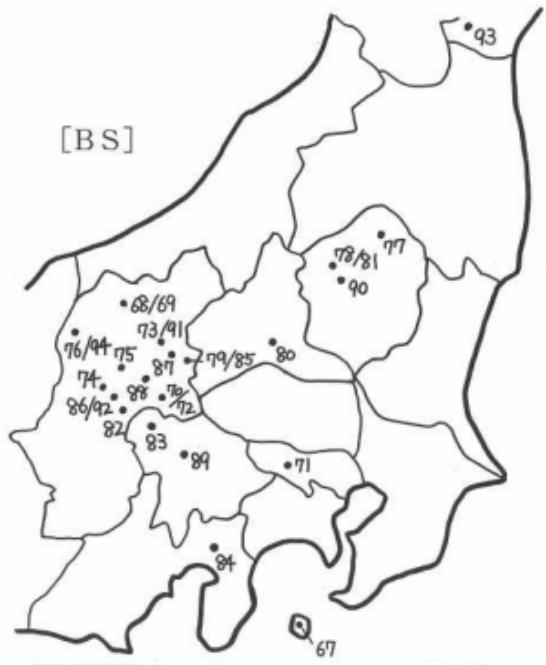
【第3章】 体験

§1 歴代キャンプ地の概要

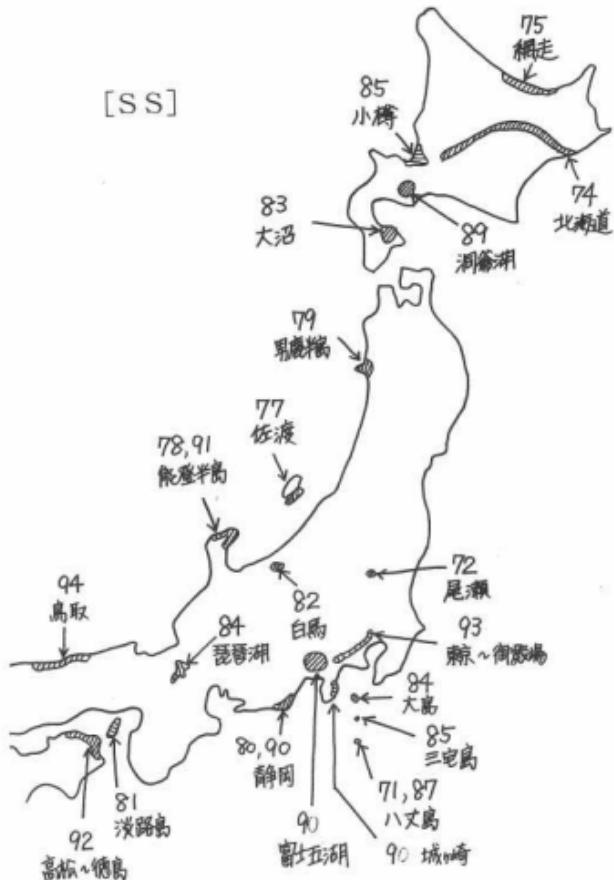
[CS]



年	場所	年	場所	年	場所	年	場所
1967	武甲山	1974	鷺が峰	1981	五色沼	1988	丹波
1968	不明	1975	八坂	1982	西高須野	1989	下部
1969	保科	1976	小諸	1983	上野村	1990	樅本
1970	羽村	1977	丹波	1984	秩父	1991	秩父
1971	羽村	1978	曾平	1985	道志川	1992	針生
1972	保科	1979	和田岬	1986	清里	1993	南麓王
1973	道志	1980	西部須野	1987	樅本	1994	中山高原



年	場所	年	場所	年	場所	年	場所
1967	大島	1974	鷺が峰	1981	小倉山	1988	蓼科
1968	戸隠	1975	矩木平	1982	入笠山	1989	三井の森
1969	戸隠	1976	中山高原	1983	白洲	1990	今市
1970	野辺山	1977	奥塩原	1984	御殿場	1991	湯の丸
1971	羽村	1978	小倉山	1985	清水	1992	梨平
1972	野辺山	1979	清水	1986	梨平	1993	南郷王
1973	湯の丸	1980	相馬が原	1987	南軽井沢	1994	中山高原



§2 BS優秀班

年 度	班 名	班 長 氏 名	キ ャ ン ブ 地
1970	タイガー	福嶋 和美	長野県 入笠山
1971	タイガー	武藤 敦人	東京都 羽村
1972	タイガー	猪寺 真幸	長野県 入笠山
1973	ホーク	鈴木 信之	長野県 温の丸
1974	ホーク	武藤 郁人	長野県 鶴が峰
1975	バッファロー	雨宮 有	長野県 姫木平
1976	バッファロー	雨宮 有	長野県 中山高原
1977	ペガサス	野尻 恵彦	長野県 奥塩原
1978	スワロー	佐藤 光信	栃木県 小倉山
1979	ペガサス	猪寺 健太郎	長野県 清水
1980	スワロー	上野山 聖基	群馬県 相模原
1981	スワロー	藤巻 伸介	栃木県 小倉山
1982	コンドル	服部 健一	長野県 入笠山
1983	スワロー	吉川 和雄	山梨県 白州
1984	スワロー	小山 賢吾	山梨県 御殿場
1985	スワロー	上村 健一郎	長野県 清水
1986	ペガサス	小林 央之	長野県 梨平
1987	ペガサス	小林 央之	長野県 南軽井沢
1988	ペガサス	吉田 肇馬	長野県 萩科
1989	コンドル	花井 久徳	山梨県 三井の森
1990	コンドル	花井 久徳	栃木県 今市
1991	ペガサス	中里 竜司	長野県 温の丸
1992	ペガサス	京野 吉剛	長野県 梨平
1993	ペガサス	京野 吉剛	宮城県 南蔵王
1994	ペガサス	長沢 俊介	長野県 中山高原

§3 7回開催の基礎知識

● もやもや ●

焚き付けに便利な杉の小枝のこと。火をつけるとモヤモヤ煙が出てくるところから、この呼び名になったと考えられる。以前は「もやもや」の他に「ばらばら」、「よくもえ」、「よくもー」などの同義語があったが、いつの間にやら淘汰されてしまった。

● パクダン ●

ジャンケンの袋のこと、束になると鬼のようになくなる。以前はコゲ茶のゴム引き布製袋に入っていたが、これにジャンケンの袋がばんばんに入っていると、それこそ爆弾にそっくりで、キャンプの荷上げ荷下ろしの日には、誰も運ぼうとしない手を触れたがらない袋のさわやるものだった。

● たまねぎ ●

張り綱その他の肩ロープを入れる袋のこと。文字通り八百屋のタマネギ袋である。

● 大ロープ ●

レインジャー用のロープとして使われている。数年前に佐藤・黒坂両名が合羽橋、築地を通り歩き、これに付ける滑車を船具屋で購入し現在は取り付けられている。滑車が引けられる前の大ロープ取りは、ボーイ隊のゲームの最高峰だった。

● たらい ●

窓囲当初から我が班に伝わる、重宝する万能道具。あるときは行水に、あるときは焼きうどんの網に、あるときは夕食会のサラダに、何でもござれ。高齢隊長がフリチで行水した直後に作る焼きうどんの味は格別に気色悪い。

● ちやらちらら ●

キャンプで優秀組、優秀班を取ったときにもらう紙旗・旌旗につける、キーホルダーのような飾り。調理用の組を編んで作るのが一般的である。例外として、トマト、ジャガイ

モ（もちろんニセモノ）が出たときがある。

福崎副田委員長、滝沢副長はちらちらやら名人で7団人間関係に指定されている（ウソ）。

● レプリカ ●

カブキャンプの最優秀組に贈られる革製「特大ちやらちやら」。これを製作するのは滝沢副長で、毎年工夫を凝らしたレプリカで皆をうならせる。最近では少しきく重くなっているため、組長がうなっているらしい。

● バネル ●

サヨナラ会でB S の年間最優秀組にだけ贈られる、半切サイズのバネル写真のこと。写真は春または夏キャンプで撮った班の集合写真。みんなこれをを目指して一年間頑張っている。（ちなみにベガサス班の班長を2年間務め、2年連続で年間最優秀班を取った小林副長は2枚のバネルを所有している）

● 三沢商会 ●

三沢副長がしばしば個人的に海外製品（特にアウトドア）を個人輸入する際に、他のリーダーもこれに便乗してジャケットやキャンプ用品を購入している。最近の例としては、C S隊の救急バッグが三沢商会を通じて購入された。（日本で買う値段の約半額だった）

● 滝沢工房 ●

先に紹介した「レプリカ」、「ちらちらやら」の製作をお願いするのがこの滝沢工房である。井深大氏のサインが入っている7団の看板もここで作られた。

職人は滝沢副長ただ1人である。

§4 オリジナルゲーム・ソング集

中野 7団のゲーム

ここでは、隊集会や、キャンプでよく行われる、7団ならではのゲームを紹介したいと思います。7団のゲームは、ご存じのとおり、身体と身体のぶつかり合う激しい肉弾戦が多いのですが、このゲームをとおして最近の子供たちに欠けている「男の、痛い、辛い等に立ち向かう闘争心」を磨くこと、ゲームのルールを守ることによって日常生活のなかにある「ルール、規則を守るスカウトになる」ということ、そして「チームワーク、高める」ということに狙いを置いています。

<ロープ取り>

用意するもの：ロープ（1つ）、ホイッスル（リーダー）

やりかた：① 各班ごとに、陣地を決める。

② 各班ごとに、1番の人、2番の人というふうに番号を決めていく。

③ リーダーがホイッスルを吹いて番号を示し、該当のスカウトがロープをとりにいき、自分の陣地に持っていくたら得点。

規則：キックは禁止しないと危険。

アレンジ：ロープを、ボールに変えるとラグビーのようになってこれも面白い。

<ハット取り>

用意するもの：ロープ（各自）、ハット（各自）、手旗（1つ）

やりかた：① 各自ロープを、自分の襟にもぐらひだれる。

② もう片方の端（全員分）を、手旗を芯にして結ぶ。

③ スカウトを均等に放射線状に並ばせる。

④ スカウトの外側3～5mのところに、ハットをならべる。

⑤ リーダーの合図でハットを出さるだけ多く取る。

エピソード：ゲームが終わるころには、ロープが堅くむけ付っているので、なかなか解けないのだが、過去にこれでリーダーは手旗を真っ二つに折ってしまったことがある。

<1、2ブルドッグ>

用意するもの：なし。

- やりかた：① 20mくらいの間隔で2本の線を引き真ん中にオニを2人置く。
② リーダーの、ホイッスルに合わせて他のスクウトは二本の線のあいだを往復する。
③ 往復するあいだに、オニは、スクウトを捕まえ、持ち上げる。
身体が全部持ち上がったら、オニは、「ワンツーブルドッグ」と言う。（この間に、少しでも空だが地面についたらダメ）
④ 持ち上げられた人は、オニになる。こうしてオニがどんどん増え、ゆき、最後のスクウトが持ち上げられるまで続く。

エピソード：最近では、汚れることにスクウトが快感を覚えはじめ、哲学堂にわざわざ水を注いでその中で行うこともある。

また、見ているリーダーも、そのうち昔を思い出して飛入り参加して一緒にどろどろになることがある。

<殺人光線>

用意するもの：点滅する機中電灯（1つ）殺人用機中電灯（数個）

やる場所：できれば、森の斜面。

- やりかた：① スタートにスクウトをならばせそこから30m程度のところに点滅する機中電灯をセットする。
② スクウトは、その機中電灯を目指して斜面を駆け上がる。
しかし、途中に点滅するリーダーの殺人光線をあびて、名前を当てられてはならない。
③ 名前を当てられず、無事に点滅する機中電灯を手に入れたスクウトが勝ち。

エピソード：だいたい森のなかで行うため、擦り傷防止のために、雨具を着用するのだが快わてみると、雨ではなく、汗で身体がびしょびしょになっていることが多め。

作 戦：一人だけ目だったカッコウはしない。班で雨具の色を揃える。

<WASHO 1 1>

用意するもの：ボリタンク、丸太、ロープ

- やりかた：① ボリタンクに水を一杯に入れ、ロープで丸太に縛りつける。
② 班ごとにそれを担ぎ、自分の班の水をこぼさないようにしながら、他の班の水をこぼす。
③ 一定時間で区切り、水がたくさん残っている班が勝ち。

注意：道具着用のこと。

エピソード：むかし（87）、このゲームをやらんがために「みず掛けゲーム」というダミーのゲームをやらされたことがあった。

<ハット取ってしっぽ取ってGOOD>

用意するもの：班旗、ハット、ネッカチーフ

- やりかた：① 各班共に陣地を決め、班旗にハットをのせる。
② 各自ネッカチーフを腰につける。（しっぽ）
③ 他の班のハットを自分の陣地に持ってきたら勝ち。ただし、しっぽは、命なのでしっぽを取られた人はアウト。

（自分の班のスクウトのしっぽがすべて無くなったら負け）

エピソード：この題名は、田原俊彦の「ハッとしてGOOD」からとったものでこの手のアイドルの曲から題名を取ってくるのが一時期はやった。

*この曲、足音に付けたネッカチーフを取り合う「夏の屋」（松田聖子の曲）は、名作と呼ばれている。

<もちものならべゲーム>

用意するもの：自分の持物すべて

- やりかた：①スタートラインを決めて、リーダーの合図とともに、各班自分たちの持物を一列に並べていく。
②終了の時点で、一番並べた直隣の長かった班の勝ち。

エピソード：数年前カブでこのゲームをやったときには、スクウト達が、自分の

ている制服までも並べはじめ、最終的には、フルチン状態にまでなつてしましました。

教訓：スカウトが、自分の持物に名前を書いているかということも調査でき、一石二鳥だが、やる場所を考えましょう。

・・・・・と言うわけで、スカウトの制服はいつもどろどろなのです。

いつも洗濯してくださっているお母さま方、ありがとうございます。

これからも、よろしくお願ひいたします。

中野7団のソング

鈴木前B5隊長が作曲が得意だったためか、7団には、オリジナルソングが数多く存在します。我々は、これらの曲を演奏会や、キャンプで積極的に取り上げています。

これらは、我が家にとって宝であり、また誇りでもあります。

ここでは、そのオリジナルソングを紹介したいと思います。

1. オリジナルソング

① 団歌（表紙参照）

② 「7団マーチ」

* Let's Go 中野7団 , Let's Go 中野7団

みんなで創ろう 明るい世界を

僕たちは、いつも笑顔を絶やさず (BS : 絶やさず)

根性を入れて頑張るスカウトだ (BS : スカウトだ)

(CS : キャンプでは、工夫凝らしてデイン作り) (BS : デイン作り)

(CS : ナイトゲームではきもだめし) (BS : きもだめし)

雨の日だって雪の日だって 哲学堂が僕等の広場

(副長 : みんなで頑張り 優秀組取るぞ) ウォウォウォウ

* くりかえし

僕たちは、いつも苦しさに負けない (BS : 负けない)

気合を入れて頑張るスカウトだ (BS : スカウトだ)

(BS : キャンプで丸太組んで小屋作り) (CS : 小屋作り)

(BS : ナイトゲームは男の闘い) (CS : 戦い)

暑い日だって寒い日だって 日曜9時が僕等の時間

(副長 : 班員鍛えて優秀班取るぞ) ウォウォウォウ

* くりかえし

みんなで創ろう 明るい世界を！ サア！

③ 「7団讃歌」

哲学堂の緑の森に 今日も響くスカウトの声

ぼくらスカウト ぼくらスカウト

明るい社会を 中野7団

明るい社会を 中野7団

2. 集会用オリジナルソング（かいとうた。副練の前に、みんなで歌う）

① サーキットトレーニングのうた（ぼくらはみんな生きているの節で）

僕等はみんな7団だ 7団だからサーキット

② ゲームのうた（体操競技の節で）

ゲームをやっては日本一に 夢は大きな優秀社だ

いつもハキハキ元気な笑顔 強い人には味方する

頑張り頼むぞ 中野区一番 7団ボーイ隊

③ ソングのうた（ドシラソファミレドで）

ソングの時間だー ドワードー

④ 手旗のうた（ドレミファソランドで）

手旗の副練 ワー

⑤ 結露法のうた（静かなる湖畔の節で）

哲学堂の森の影から 「結露法やろう」とリーダーが言う

「やだー」「やだー」「やだ、やだ、やだー」

3. 踊り

① 中野区音頭（オバQ音頭の節で）

空は晴れたしホイ中野 慢まじないしホイ中野

心うきうきおつかも軽いよ ホーイ中野区クールクル

空にナの字の 空にナの字の 直返り直返り

中野区中野区国づくり 中野区中野区国づくり ハーー

② 鉄腕アトム

③ エイトマン

④ キングコング

⑤ 鉄人28号

⑥ 返ってきたウルトラマン

⑦ ピンポンパン体操

⑧ あつちやわいて こっちやむいてのうた（アチャバチャノーチャの替え歌）

⑨ 鬼のハシツ

あとがき

下井草の空き地で行った20周年記念式典から早くも10年が過ぎました。10年という月日は早いもので、あの式典がまるで昨日のことのように思い出されます。あの時カブスカウトであったものは、いまではリーダーとして奉仕していますが、彼らがいまこうして奉仕しているのは一層に「7団が魅力のある団」であるからだと思います。

では、その魅力とはいったい何なのかといえば、「リーダー」にすべて集約されます。発団当時から我が7団は、才媛らしいリーダーに恵まれスカウトはそれを見て育ってきました。今度はそのスカウトがリーダーになり次の世代のスカウトを育てる。こうした循環により、7団のリーダーはすべてスカウト上がりで、自分たちの体験や反省を生かしたスカウティングを指導できるわけです。我々は、こうした素晴らしい中野7団の歴史、スピリットを更に向上させ、この先40周年、50周年。。。100周年が来るたびに、さらに大きく大きくなっていることを願っています。現在スカウトの諸君は、この意をくみ取って、更なるスカウティングにはげんでください。

最後に、お祝いのお言葉を下さった東京連盟事務長の武田先生はじめ、中野地区諸先生方、本誌印刷に際し、色々とご協力いただいた共同美術印刷株式会社には、紙面を借り深く御礼申し上げます。

敬愛

1995年7月